

2010.4 No. 16



佐賀大学病院ニュース

患者・医師に選ばれる病院を目指して

News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

病院機能 評価について

総務課 田崎 法人

皆様は、病院1階ロビーの東側壁面に掲示している「認定証」をご覧になったことがありますか？

本院は、平成21年6月24日から26日までの3日間にわたり、財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の審査を受け、平成21年10月2日付けで前回に引き続き更新認定を受けました。

この病院機能評価は、第三者である財団法人日本医療機能評価機構による書面審査・訪問審査により病院の機能評価が行われ、評価結果が一定の水準以上であり問題点の改善に努め成果を上げている病院に認定証が発行されます。

今回の審査では、次の7領域について審査が行われ、すべての基準をクリアし認定を受けることができました。

- 1 病院組織の運営と地域における役割
- 2 患者の権利と安全確保の体制
- 3 療養環境と患者サービス
- 4 医療提供の組織と運営
- 5 医療の質と安全のためのケアプロセス
- 6 病院運営管理の合理性
- 7 精神科に特有な病院機能

今後とも、佐賀県の地域医療を担う中核病院として、医療の質の向上と効果的なサービスの改善に向けて、職員一丸となって努めてまいります。



手術支援ロボット da Vinci Sの導入にあたって

今年3月に Intuitive 社の手術支援ロボット da Vinci シリーズの第3世代になる da Vinci S が国立大学病院では最初に佐賀大学医学部附属病院に導入されることになりました。本ロボットは欧米を中心に世界中ですでに泌尿器科手術、消化器手術、胸部外科手術や婦人科手術で活躍していますが、我が国では薬事承認が昨年11月と遅れたため個人輸入で数台が稼働していたに過ぎません。本ロボット手術の特徴は近年低侵襲手術として盛んに行われるようになった鏡視下手術を行うにあたって様々な利点をもたらすことが期待されます。本来鏡視下手術の鉗子は体壁に

創設されたポートを通して稼働するため自由度に制限があり術者の技量に依存するところが多々ありましたが、この da Vinci S は多関節機能を有するアームを持ち本来の手の動きもしくはそれ以上の動きを術野で再現します。また、高解像度3D画像で見る術野は奥行き感が増し、立体的にリアルティの高い術野を展開します。また実際に手のふれや誤操作などの不自然な動きを感知してそれを消去するフィルター機能なども備えていて、今後発展するであろう鏡視下手術のより安全で正確な手術のために大いに期待できます。



一般・消化器外科

能城 浩和

PET・CTについて

PET (ポジトロン断層撮影法) 検査とは、ポジトロン (陽電子) という放射線を出す物質を含んだ薬 (POSITRON 放出物質) を注射し、そこから出る放射線をPET装置で検出し、薬の体内分布を画像化して病気を診断する検査法です。生体の機能や代謝状態がわかります。

PET-CT装置はPETとX線CTを連結したもので、薬の投与後にPET画像とCT画像を撮像します。機能とかたちを組み合わせられた情報が得られます。

検査ではF-FDGという薬を使用します。これはポジトロンを出す放射性物質 (F) に、ブドウ糖によく似た物質 (D-G) フルオロデオキシグルコース) をつけた薬で、ブドウ糖をよく使う組織 (脳、心筋など) にたくさん集まります。がん細胞は、増殖するために正常

細胞よりたくさんブドウ糖を必要とします。このためF-FDGを注射するとがんの病巣にもたくさん集まります。そこから出る放射線をPET装置で検出することにより、がんの存在、転移や再発がないかなどを調べることができます。ただし、がんの性質、大きさ、部位、血糖値が高い等の諸条件によりがんが検出されにくいこともあります。また、がんだけでなく一部の良性疾患や炎症疾患、生理的機能 (腸管や筋肉の運動) に薬が集まることもあります。このように、がんの診断には限界があることを知っておく必要があります。一般にPET-CT検査は、がんと診断された患者さんの転移や再発の有無を調べる目的で施行されます。保険診療外であれば検診でがんを見つける目的で使用することもあります。

放射線科 大塚 貴輝



就任挨拶

整形外科科学講座 教授

馬渡 正明



3月1日付けをもちまして教授に就任した馬渡です。これまで5年間准教授として働いてきましたが、前任の佛淵先生が昨年10月に佐賀大学長に就任された結果、空席となりました。これまで同様、手術症例数日本一の股関節外科を中心とした整形外科の診療・研究・教育を行ってまいります。「合併症ゼロ」の整形外科治療を目指し「患者さん第一」をモットーに講座を運営していきたくと思います。

地域医療 支援学講座 教授

杉岡 隆



地域医療再生のため本年4月に新たに立ち上げられた地域医療支援学講座 (寄附講座) の教授として担当させて頂くことになりました。私は山口県出身で平成2年に自治医科大学を卒業後、研修を含めて約15年間山口県内の山間や離島で地域医療に従事し、その後京都大学の医学研究科において地域医療における研究の方法論を学んできました。

当講座では地域で特に必要とされる臓器や疾患を限定せず全てに対応する総合内科医の育成や外傷から救命医療まで対応できる小児科医の育成を目指して教授1名、准教授1名、講師2名の計4名の教員が指導に当たり、さらには不足分野である産婦人科や麻酔科等の医師の確保も視野に入れております。立ち上がったばかりの新米講座ですが、地域医療をより良くするモデルを作り佐賀県の地域医療に貢献できるよう一丸となって頑張る所存ですのでどうぞよろしくお願いたします。

病院機能評価について

田崎 法人

手術支援ロボット da Vinci S の導入にあたって 能城 浩和

PET・CTについて

大塚 貴輝

整形外科科学講座教授・地域医療支援学講座教授の紹介

看護技術の向上を目指して

看護師もできる静脈注射

看護部 江頭恵美子

医療の高度化・保健を取り巻く環境の変化に対応するため、平成14年9月に厚生労働省医務局長通知で看護師等による静脈注射の実施は、「業務の範囲を超えるもの」から「診療の補助業務の範疇として取り扱うもの」と行政解釈が変更されました。また、平成19年12月には厚生労働省通知で、静脈注射は看護職の業務拡大となりました。

それを受け本院でも医療職の役割分担や看護業務の拡大の必要性を考え、静脈注射実施検討ワーキングを結成しました。ワーキングでは、安全に静脈注射を実施できる看護師を育てるための検討を重ねました。

患者さんへの実施にあたっては、看護師の教育として先端医学研究推進支援センターの立石氏と静脈注射の手法のDVDを作成しました。技術演習は、



卒後臨床研修センターの江村医師、吉田医師に、平野副薬剤部長に薬剤師の知識に関する講義を行っていただきました。各部署により色々な特殊性があるため、看護師が実施できる静脈注射の範囲について医師と話し合いを行いました。経験3年以上の看護師は、医師の指示のもとに平成20年10月から静脈注射(翼状針)、平成21年10月から静脈留置針挿入を実施しています。実施状況は部署の特殊性から差異はありますが、安全な静脈注射を医師と協力しながら行っています。

この他にも、看護師全員を対象に経験年数に応じた看護技術研修を実施しています。常に患者さんの安全・安楽を考え、他職種と協力し個別性のある看護を実践するために知識や技術の向上に努めています。

呼吸サポート班の活動について

呼吸サポート班 林 真一郎

人工呼吸は正常な呼吸を営むことができなくなった患者さんにとって大切な補助療法です。顔にしっかりとフィットするマスクを装着して陽圧の空気を送り込む非侵襲的な換気法や気管内にチューブを挿入して陽圧の換気を行う方法がありますが、どのような方法であっても生理的ではない状態で患者さんは管理されることとなります。このため、肺炎(人工呼吸器関連肺炎)などさまざまな合併症を起こす危険性があります。佐賀大学医学部附属病院のいずれの科にも入院されても、患者さんが呼吸管

理を安全に受け、またできる限り早期に人工呼吸器から離脱できるように、各々の診療科と協力して診療を補助する目的で私たち呼吸サポート班が平成21年4月に発足しました。現在、麻酔科・集中治療部・口腔外科・リハビリテーション部・呼吸器内科の医師、集中ケア認定看護師、臨床工学技士、理学療法士によって構成されており、各々専門的な立場から意見を出し合いながら毎週回診を行っています。平成22年4月からは呼吸サポート班による回診について毎週診療報酬も算定できるように



なりましたので、さらに積極的な取り組みを目指します。

処方せんに書かれるお薬の量や服用方法の記載方法が変わろうとしています

薬剤部 平野 和裕

内服薬処方せんについて、薬の名前、量、服用方法に関してこれまで施設によって様々な記載方法があったため、間違いが起らないようにするために全国で標準化に向けた取り組みが行われます。現在は、1日に服用するお薬の量を処方せんに書いて、その量を、1日に何回に

分けて服用するかを書かれています。これでは、患者さんが自分の処方せんを見た時に、1回に服用する数も分かり難く、また、薬の袋の1回何個服用するかという表示とも一致しないため、患者さんが困惑することもあるかと思えます。そこで、厚生労働省から、服用量につい

ては1回量で、服用方法は日本語で明確に記載するように通知が出されました。猶予期間がありますので、直ぐではありませんが、いずれ本院の処方せんも、分り易い表示に変わりますので、その時はよろしく願います。

実際の処方例		
【現在】	フロモックス錠 100mg	3錠
	ムコソルバン錠 15mg	3錠
	分3 毎食後	7日分
↓↓	【将来】	
	フロモックス錠 100mg	1回1錠
	ムコソルバン錠 15mg	1回1錠
	1日3回 朝昼夕食後	7日分

入院患者の鑑賞用に絵画(リトグラフ)の寄贈を受けました

佐賀市在住の画家 塚本猪一郎氏から、入院患者の心を癒す鑑賞用に絵画(リトグラフ) 22点の寄贈を受けました。それに対する感謝の意を表し、平成22年4月15日病院長室において感謝状の贈呈を行いました(写真)。今回寄贈された絵画(リトグラフ)

フ)は、各病棟の病室(個室)に飾りました。なお、塚本画伯からは平成21年3月にも絵画(リトグラフ) 7点の寄贈を受けており、中央診療棟2・3階廊下に飾っていますので、ぜひ一度鑑賞ください。

フ)は、各病棟の病室(個室)に飾りました。なお、塚本画伯からは平成21年3月にも絵画(リトグラフ) 7点の寄贈を受けており、中央診療棟2・3階廊下に飾っていますので、ぜひ一度鑑賞ください。



附属病院内チャットラウンジ(談話室)におけるコーヒーショップの設置について

経営管理課 岡 清隆

本院については、佐賀県における中核病院として、地域医療に貢献するという責務を担っており、それにふさわしい病院を目指すべくさまざまな院内環境の整備を実施しているところで

そこで、今回、患者さん等への憩いの場の提供と職員等の福利厚生向上を図るために新たに附属病院1階売店前に設けたチャットラウンジ(談話室)内にコーヒーショップを設置することとしました。

その運営事業者の選定にあたっては、本院にふさわしいコーヒーショップの在り方を企画・立案してもらい、その提案内容について審査を行った結果、皆様もよくご存知のドトールコーヒーに決定いたしました。是非とも皆様にご利用いただければと思います。

なお、今回のコーヒーショップについては、営業日を年中無休とすることや営業時間も午後9時までとすることをはじめとし、約100種類の豊富なメニュー構成など皆様が利用しやすい店舗運営が行われます。

また、その飲食スペースとして広々としたウッドデッキを設けるなど患者さん等の病院利用者に対し、誰もが利用できる開放された空間を提供することで皆様リラックスし、くつろげる環境づくりを目指しました。

晴れた日には、外のウッドデッキで青空の下、一杯の美味しいコーヒーを飲みながら「ホッと、一息」の時間を共有することにより、皆様の安らぎの場として利用していただければ幸いです。

